

⑧インフラ老朽化対策（基本的な考え方）

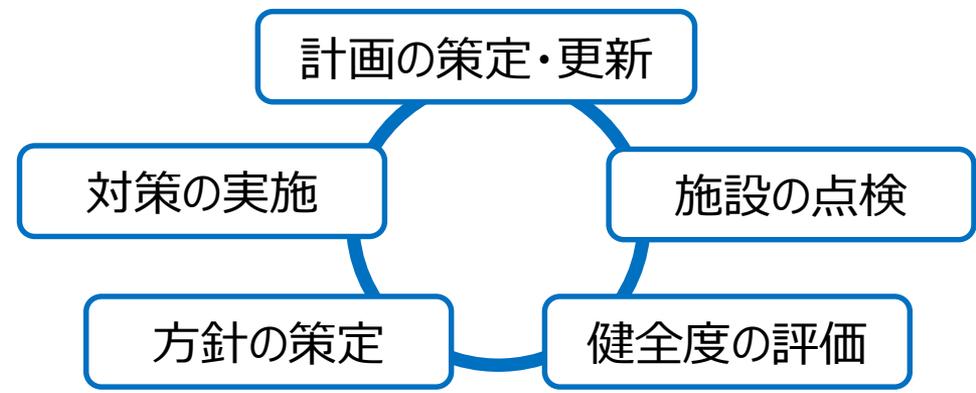
個別施設の特性に応じた維持管理

○予防保全（状態監視）型維持管理
施設の劣化状態を把握し、損傷が大きくなる前にこまめに補修や修繕を行う



- ・メンテナンスサイクルの構築
- ・施設の長寿命化の実現

○適正な施設規模の見直し
道路、橋梁などは規模の縮小や廃止は困難であるが、歩道橋など一部施設は利用状況などを勘案し、撤去を検討

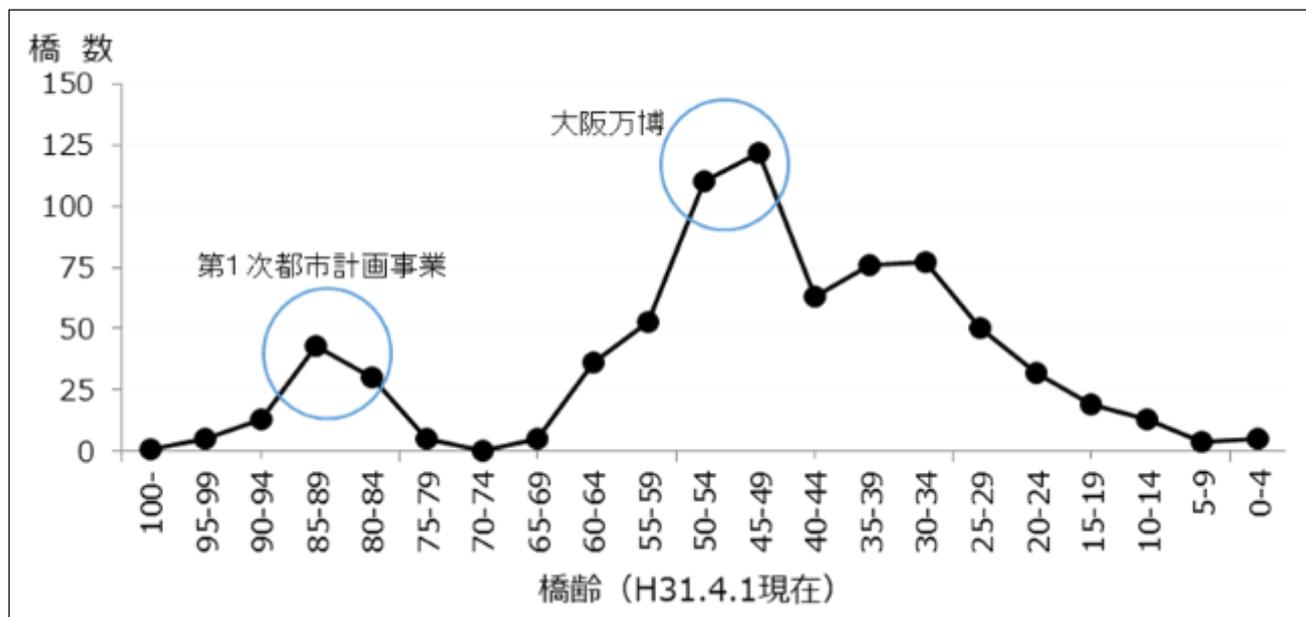


メンテナンスサイクルのイメージ

⑧ インフラ老朽化対策（橋梁の年齢）

早くから都市化が進んだ大阪市は、インフラ老朽化でも「トップランナー」人口減少社会においていかにインフラを健全な状態に保つのが課題

橋齢の分布



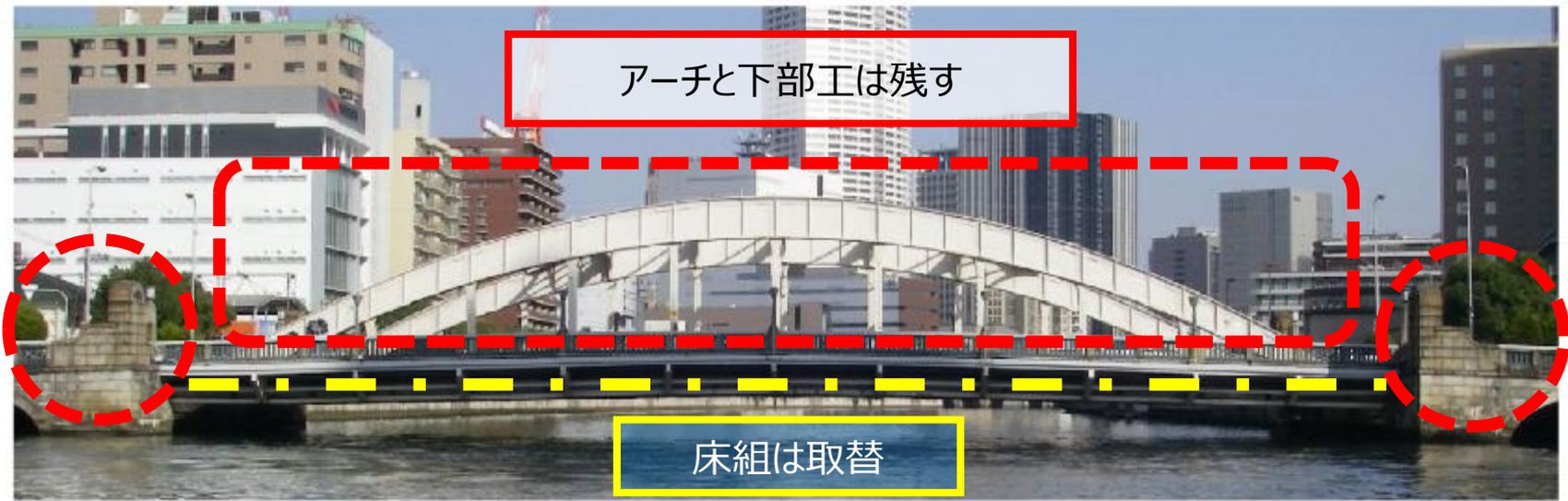
- ・管理橋梁数 762 橋のうち、約 100 橋が今後 30 年の間に順次、橋齢 100 歳を迎える。
- ・橋梁の高齢化に対して、橋梁の長寿命化を図っていく必要がある。
- ・併せて、損傷が著しく、補修や補強では対応できない橋梁について、計画的に架け替えを実施する。

堂島大橋（1927年完成）



- 橋長：77.14m
- 幅員：22.70m
- 橋梁形式：下路式2ヒンジソリッドリブアーチ
上路式コンクリートアーチ

堂島大橋



⑧ インフラ老朽化対策（長寿命化対策工事）



1. 既設コンクリート床版の撤去（上流側⇒下流側）
2. 変形したアーチ形状を元に戻すためにアーチをジャッキアップ（強制変位）
3. 既設の横桁を撤去しつつ、新設の横桁・鋼床版を架設（下流側⇒上流側）
4. 既設アーチ塗装塗替え
5. 橋面工（高欄、舗装等）
6. 完成

⑧ インフラ老朽化対策（改築更新事業）

老朽化した施設の改築更新を、官民連携手法を導入し、効率化して事業実施（水処理施設の改築更新事業として、PFI手法を活用した全国初の取り組み）

- ・メーカーにより様々な技術・ノウハウがあることから、性能発注により民間技術を導入し、設計・建設と長期の保全管理をPFI法に基づき一括発注することで、コスト削減・工期短縮を実現

本事業範囲

業務	H29～R7（約9年）	R7～R21（約15年）
3系水処理施設 (本事業整備対象)	設計・建設： SPC（民間）	保全管理：SPC（民間）
		運転管理：大阪市



完成後のイメージパース



水処理施設Co打設



流量計室頂板配筋

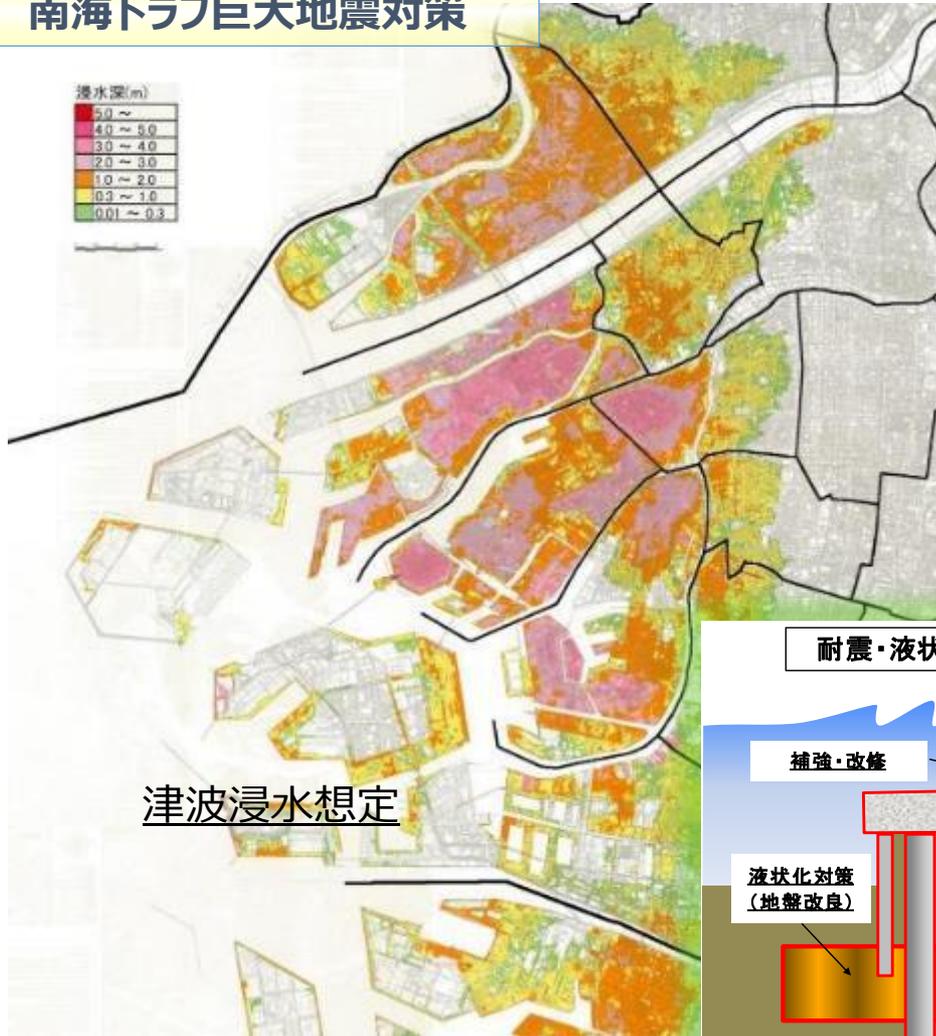


シールド発進立坑Co打設

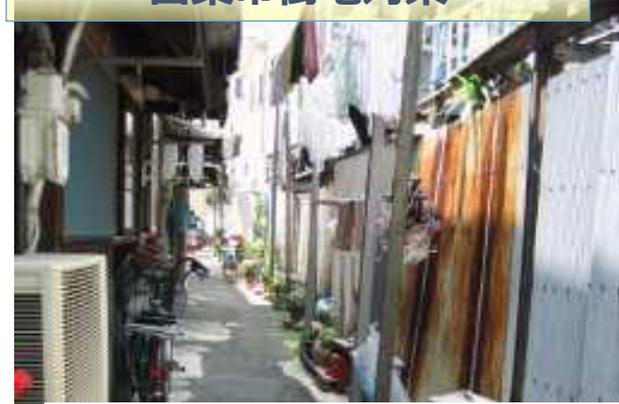


到達立坑地盤改良

南海トラフ巨大地震対策



密集市街地対策



-  防災性向上重点地区(アクションエリア)
-  特に優先的な取り組みが必要な密集住宅市街地

耐震・液状化対策

